



昭和43年火災統計

多いタバコの不始末

市消防本部から昭和43年の火災統計が発表されました。

これによると、昨年1年間に市内で発生した火災は102件で、死者1人、負傷者23人、損害額2億2,902万円の被害をだしています。

昭和42年とくらべると、件数は6件、負傷者は13人、損害額は1億3,675万円それぞれ多くなっています。

それでは、これを発生原因別、発生月別、発生地域別などについてみてみましょう。

出火原因別では、たばこの不始末が17件でもっとも多く、ついでたき火によるもの13件、放火または放火のうたがいがあるもの9件、火遊び8件の順となっています。昨年にくらべると火遊びは少なくなりましたが、たばこ・たき火・放火による火災は大幅に増えています。とくにたばこによる火災は工場、作業場でそのほとんどが発生しています。

月別の発生状況を見ると、2月が20件1月と4月が12件、11月が10件の順になっています。ところが、損害額では7月が6,309万円・11月が5,910万円・8月が5,200万円の順になっており、件数と損

害額は比例していません。これはストーブや電機器具

を多く使う冬は火災予防に注意しますが、夏は“火”に対する注意がおろそかになるためと思われます。火災はわたしたちのちよつとした不注意で発生します。つねに“火”の取り扱いには注意したいものです。

発生状況を地区別にみると、いままで発生率の高かった伝法、富士地区が少なくなりましたが、今泉、鷹岡地区が大幅に増えました。なお、須津地区では昨年

は1件も火災が発生しませんでした。

火災の種類別では、建物火災が61件でもっとも多く、車両火災12件、林野火災7件の順となっています。建物火災のうち、住宅火災は少なくなってきていますが、工場や作業場の火災は依然として少なくなりません。なお、工場火災のうち紙パルプ工場が11件もあり、損害額の大部分をしめています。

恐しい火災を防ぐため、お互いに“火の元”には十分注意してください。ちよつとの不注意があなたの生活を不幸にしています。

最近5ヶ年の火災発生状況表

年別	区分	火災件数	焼損棟数	り災世帯	焼損面積 (㎡)	損害額 (千円)
39		58	68	50	5,861	62,749
40		80	66	54	2,714	39,458
41		100	132	69	11,801	256,734
42		94	96	58	8,221	92,447
43		102	90	58	5,737	229,024

春の火災予防運動

2月28日～3月13日



火事はあなたのちよつとした不注意がもとで発生します。これからの季節はとかく“火”に対する注意がおろそかになりがちです。十分注意してください。

“あなたは火事の恐しさを知らない”